

あつぎ郷土博物館NEWS7月号

融合展示に飾れなかった新資料 唐箕



郷土博物館の基本展示室にある融合展示コーナーは、年に1回リニューアルされます。今年のテーマは「木」。この場所で展示、紹介したい関連資料でありながら、スペースの制約等でそれがかなわなかった新着資料の「唐箕」(=写真左)を紹介いたします。

唐箕は江戸時代に登場した農具で、穀物の精粒、くず粒、朶などを風力により効率よく選別します。昨年10月に妻田の亀井清一様より寄贈を受けた資料です。博物館にはすでに30台ほど収蔵されていますが、受け入れた理由は、この唐箕が「made in Atsugi」だからです。漏斗の部分に記された「鈴木製作所 及川村」のステンシルプリント(=写真中)、97歳の寄贈者・亀井様によれば「及川の八幡神社のそばに住んでいた同級生の家が鈴木製作所。関西の方から引っ越してきた人」とのこと。現在、鈴木製作所を調査中です。

江戸から明治、大正にかけて厚木の唐箕には上総唐箕が多くみられます。千葉県きさらづ木更津あたりからやってきた職人たちが厚木の木を使って作成した唐箕を売り歩いていたのです。その後、交通網の発達、全国規模の農具メーカーの登場等により、中部地方のものも多くなります。この「鈴木製作所製の唐箕」はどのように位置づけられるのでしょうか。

小さなことですが、追いつけることで地域の文化は少しずつ解明されていきます。

渡辺華山展を何倍も楽しむための基礎知識④

今年度の9月から11月までの予定で「優しい旅びと・渡辺華山」展—「厚木六勝」と「游相日記」—と題して特別展示を開催いたします。開催前に渡辺華山について知って華山にちょっとでも興味を持ってください。

『厚木六勝』その2

江戸時代後期の画家であり蘭学者である、渡辺華山は、天保2年(1831)9月に江戸から厚木まで、旅をしました。その際に厚木の風景を描いたものが厚木六勝です。



「桐堤賞月」

現在の(株)ソニーさんの前、旭町4丁目の信号付近にあった、きりんど橋辺りから桐辺堤を描いたと思われます。現在、残念ながら、堤や橋は残っていませんが、当時は小高い丘になっていた様で厚木の街が一望できた様です。



「菅廟驟雨」

現在の厚木中学校の辺り。田んぼの中に菅廟(天神さん)の森があったのでしよう。また、華山は江戸にある三囲神社(現在の東京都墨田区向島)に似ているとも「游相日記」に書き残しています。

7月の博物館の予定

*企画展示

むしってすごい!

会期：8月30日まで 9時～17時

実施中

あつぎ郷土博物館は、午前9時から午後5時まで開館しております。(午後4時30分以降の入館はできません。)今月は、7月27日(月)が休館日となります。

また、古民家岸邸は、午前10時から午後5時まで開館しております。(午後4時30分以降の入館はできません。)休館日は、月曜日と火曜日です。

なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、展示室内での展示解説や関連講座は中止とさせていただきます。



(申込み・問合せ) **あつぎ郷土博物館**

〒243-0206 厚木市下川入1366-4 電話 046-225-2515

Mail 8650-3@city.atsugi.kanagawa.jp

FAX 046-246-3005